

お角力遊び

お角力の季節になりました。幼児にも好角家があります。春場所の取組みが發表になります。保育室の黒板に漢字で新聞紙上通りに横綱から幕下に至るまで力士の名をちやんこかきならべるほどの大したものもあります。砂場でも、お部屋でも、いたるところを土俵にしてお角力をはじめます。

幼児のお角力取りは保姆の眼のまぶくところでさせないと思はないけがなごをする事があります。お砂場でもお部屋でも、ころんでもあぶなくない土俵にして、思ふ存分お角力をさせます。酷寒の折にも汗が出るほごになります。はすかしがりの幼児や、靜かにばかり遊んでる幼児には一段活動性を増す遊びであります。

お部屋やお砂場の都合で、幼児自身がお角力の取れない時に机上でこんなお角力遊びは如何でせう。

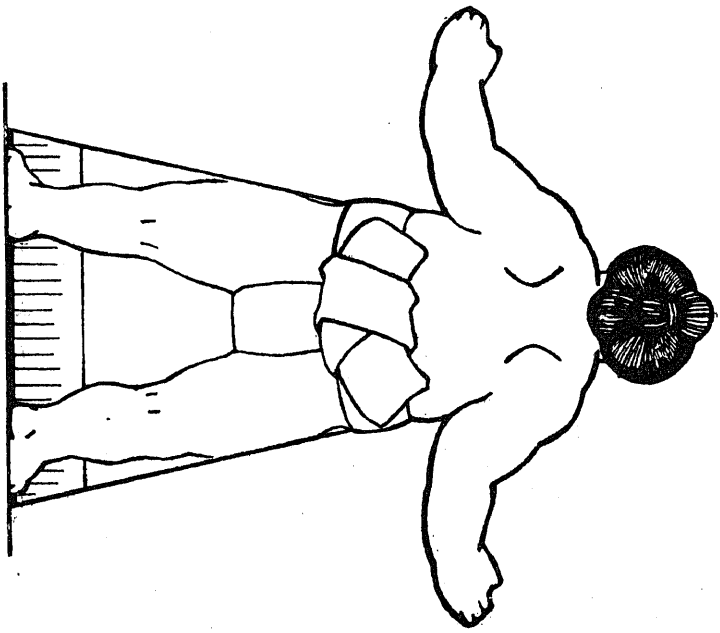
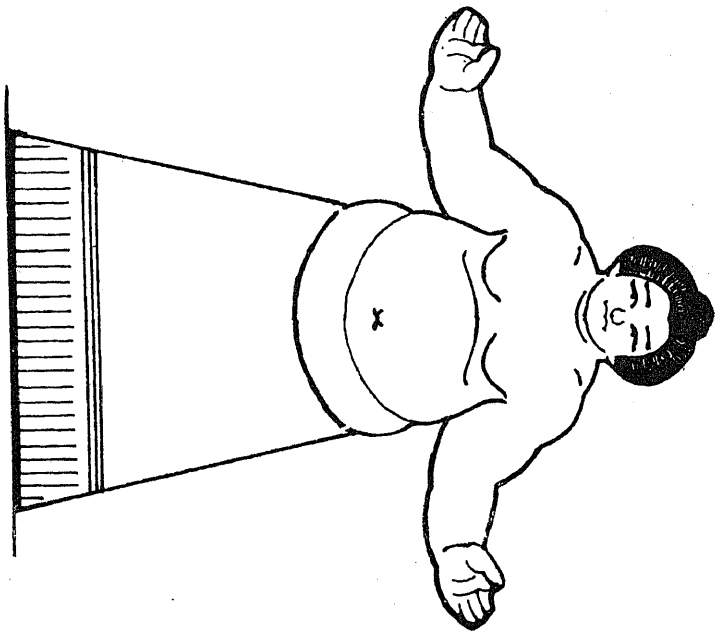
及川ふみ

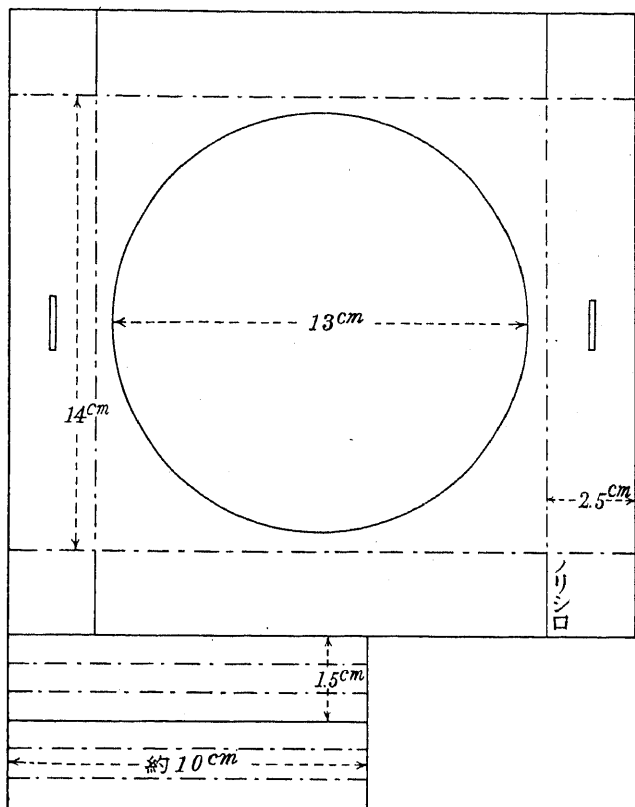
圖の様なお角力の形を三つて化粧まわしにはそれぐく幼児の御ひいきの力士の名を書き入れさせて、その輪廓を切りぬかせます。化粧まわしの房のまごころをきざぐきざぐこみ前後の二枚を上半分だけのりで、はりつけます。兩手は手のつけねから前に直角位に折り、裾は前後とも半圓にまげます。

土俵

土俵は畫用紙の八ツ切に、高さ二センチ半、縦横一四センチの方形をつくります。その中に直徑二三センチの圓形をつくり、土俵ごします。年長組の幼児には、圓形の土俵の周圍には俵の圖をかゝせませます。面白ご思ひます。

土俵の上のつた二つの角力を動かす仕組みは圖の如く四角の臺の左右イロの部分にさしはさんださきの曲つた(半センチばかり曲げる)棒様のもので、土俵の下からコツ





コツミつき上げて土俵を震動させるのであります。棒の長さは、十センチにして、半センチは上部の方にまげ、それよりさらに五センチ半だけ中にさしこんで、その棒が出たり入つたりしないやうに別の畫用紙でこめます。手で棒を動

かす部分は四センチになるわけであり
ます。お角力は二つとも棒のさしこん
だ方向におきます。そのとき二人の幼
兒でする時にはお互の角力を臺の上
のせて両方から二人でコトコト動か
すので倒れたり、土俵の線外に角力が
出たりするお負けになるのです。こ
のおもちやで幼児が一人遊びをする
ときは一方だけからたゞいて遊ばよ
いのであります。

土俵の上にヒゴや麥わらなどで四本
柱をたてたり、幕をはつたり、行司を
つくったり、軍配をつくったり、それ
からそれいろいろこの遊びも發展さ
せてゆく事が出来ます。

本年度保育實習科卒業者

東京女子高等師範學校保育實習科は本年三月左の二十四名の新卒業者を保育界に送り出さうとしてゐます、皆それぐ適當な働き場所を得て斯界の爲熱心にその職に従事し度い希望にもえてゐます。御採用を願ひます。

名	出身學校	生年	月	日	氏名	出身學校	生年	月	日
石井嘉代子	東京府立第三高女	大正六年	十月	二十七日	酒井 信子	東京東洋高女	大正七年	一月	十八日
石垣 きみ	東京女高師附屬高女	大正六年	七月	四日	嶋澤 良	青山學院高等女學部	大正六年	五月	四日
小倉 和子	東京雙葉高女	大正六年	十二月	二十五日	白井 雅子	東京牛込高女	大正八年	一月	二十五日
勝田四方子	東京府立第五高女	大正六年	一月	五日	瀬下三智子	東京女高師附屬高女	大正六年	七月	十六日
桂原 幸子	同 第三	大正六年	十月	二十七日	田口 信子	東京府立第一高女	大正六年	七月	二十三日
木藤富士子	同 同	大正六年	七月	三十日	田中 實枝	青山學院高等女學部	大正六年	五月	八日
北村百合子	同 第六	大正六年	十一月	五日	辻 由	滋賀縣立彦根高女	大正六年	六月	十七日
小島 睦美	淀橋精華高女	大正七年	一月	二日	富永 文代	東京府立高等家政	大正七年	九月	十六日
佐久間フミ	府立第一高女	大正六年	十一月	十四日	西出 和子	石川縣立金澤第一高女	大正六年	四月	二十六日
佐藤 啓子	東京女高師附屬高女	大正六年	八月	十六日	村岡 禎子	東京東洋高女	大正五年	五月	十二日
佐藤 久子	福岡縣立喜多方高女	大正七年	七月	十八日	山崎喜代子	東京三輪田高女	大正七年	一月	九日
坂田美英子	釜山公立高女	大正六年	十月	十五日	吉澤 光子	長野縣立須坂高女	大正六年	十月	十四日